

警備現場の隊員管理でこんなお悩みありませんか？

隊員からの上・下番報告の電話が集中し、管理が大変



勤務実績から手作業で請求書を発行

隊員のシフト確認をアナログで集計

「カンタン」操作で、お悩みをすべて解決！

プロキャス警備は、このようなお悩みを解決できるオールインワンシステムです。

自動でシフトを管理し、上・下番報告がボタン1つで完結され、隊員の登録情報を全社で共有できます。これにより、自社の業務効率化を実現します。

レポートのカスタマイズ自由



前日の勤務確認や上番・下番報告も電話いらず！

隊員は当日あらかじめ設定した起床・出発時間に自動で通知が届き、上番・下番をボタン1つで行うことができます。



隊員からの希望シフトの提出や管理側での確認もカンタン！

アプリのカレンダーから希望シフトの提出が簡単に可能。カレンダーから勤務決定案件のスケジュール確認もできます。



隊員の稼働実績を一発確認請求額の自動算出、請求書発行もくらく

勤怠報告から自動で稼働時間を算出。その情報をもとに請求書の発行が可能。



隊員配置



上番・下番報告（勤怠）



シフト管理



地図アプリと連動



給与計算



チャット機能



警備報告書の提出



警備業界のDX! クラウド管制システム プロキャス 警備

導入者数 **200** 増
昨年比 **200%** 増

IT導入補助金認定ツール

管制業務時間 月間 **60%** 削減

業界最安 水準



TEL.03-6278-7379

<https://pro-cas.jp/keibi/>

プロキャス警備

検索



株式会社PROCAN

〒104-0045 東京都中央区築地3丁目11番6号 築地スクエアビル8階
Mail: info-procas@procanc.co.jp

試用版アプリ配信中！



警備業界

DK マガジン
Ver.4

特集

【警備員の意識調査2025】

1年で上下番報告に変化！ 53.4%が業務のデジタル化を実感

お客様の声

隊員側も管理側も負担が大幅に軽減。

導入効果が極めてわかりやすく
DXに懸念を示していた人たちからも
好意的に受け入れられた



アイング株式会社
経営企画室部長兼DX推進担当部長
守屋氏



コラム

警備業の現場を変える！
管理システムで勤怠・配置・請求管理まで
一括効率化

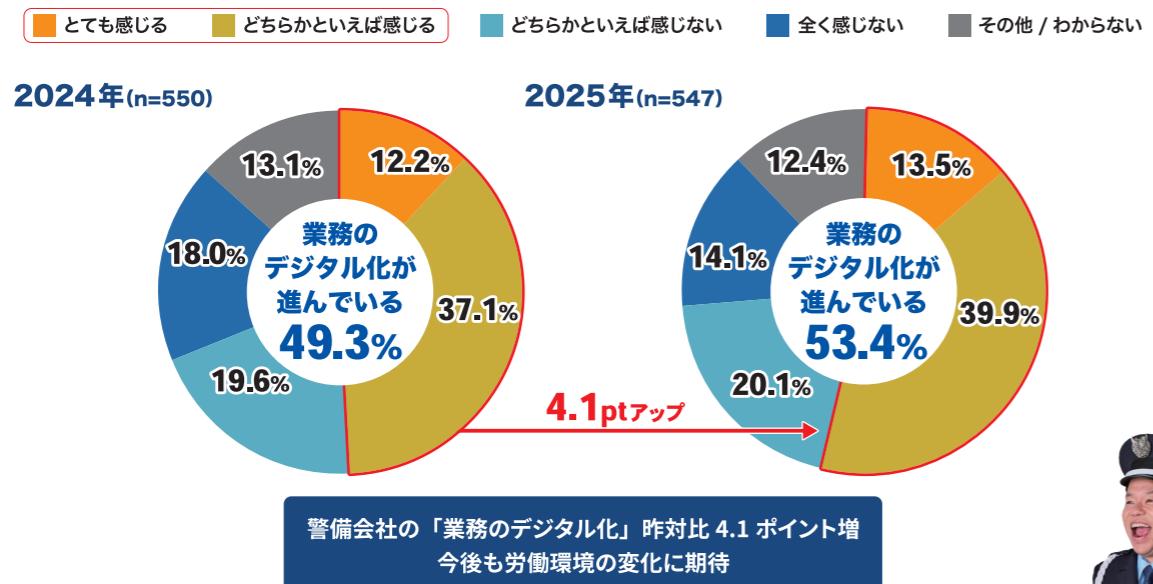
警備員の意識調査2025

1年で上下番報告方法に変化!

53.4%が業務のデジタル化を実感

Q1

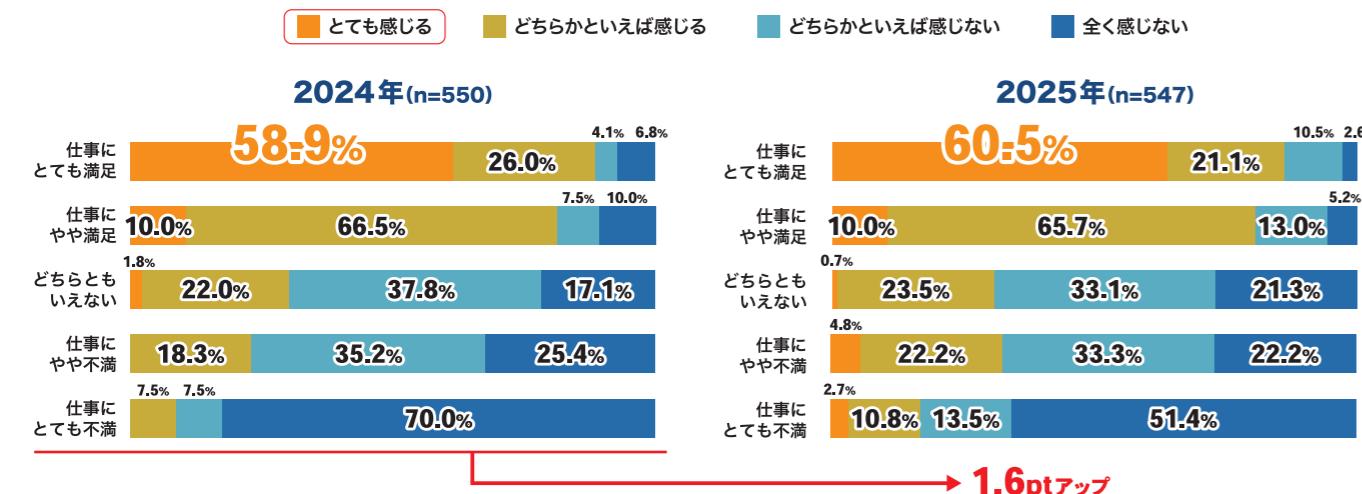
あなたが所属する警備会社は業務のデジタル化が進んでいると感じますか? (SA)



→ 全体の過半数以上が警備会社の業務のデジタル化が進んでいると感じている

Q2

仕事の満足度と業務のデジタル化の相関関係※わからない、その他は割愛



仕事にとても満足している人のうち、業務のデジタル化が進んでいると感じる人は昨対比 1.6 ポイント増
デジタル化は労働環境の改善に寄与している可能性大

→ 今後さらにデジタル化を推進することで、警備員の業務効率と満足度のさらなる向上が期待

人員不足や人材の高齢化が問題視される「2024年問題」は、警備業界において大きな課題となっており、昨年、プロキャス警備では、業界の変革や改善のポイントを探るべく、警備業経験者を対象に「業務のデジタル化」と「仕事の満足度」に関する調査を実施しました。その結果、業務のデジタル化が進んだ職場では、仕事への満足度が高い傾向にあることが明らかとなりました。本年の調査では、全国の警備業経験者 547 名を対象に、昨年からの変化を追跡調査しました。警備員の満足度を左右する要因や、業界全体におけるデジタル化の進展状況について迫ります。

【昨年の調査はこちら : <https://pro-cas.jp/news/20240509.html>】

アンケート結果
見てみてや~!



■調査概要

【調査方法】インターネット調査

【調査地域】全国 【調査期間】2025年 4月 22日 (火) ~ 4月 26日 (土)

【調査対象】47 都道府県在住の警備業就業経験者 20 代以上の男女 (年代均等割付) 【サンプル数】547 人

Q3

あなたが所属する警備会社の
「上下番報告方法」を教えてください (MA)

2025年(n=343) (MA)

チャットで通知する (LINE, SMSなど)	58.5%
メールをする	35.5%
専用の打刻アプリシステムで通知する	29.6%
電話をする	26.8%
事務所へ行ってタイムカードなどに記録する	13.6%

1年で上下番報告方法に変化!
「専用の打刻アプリ・システム」が増、従来型手段は減

→ デジタルツールの普及が進んでいることを反映、
効率的な業務運営のきばんが整いつつある

Q4

警備員を継続している理由を教えてください (MA)

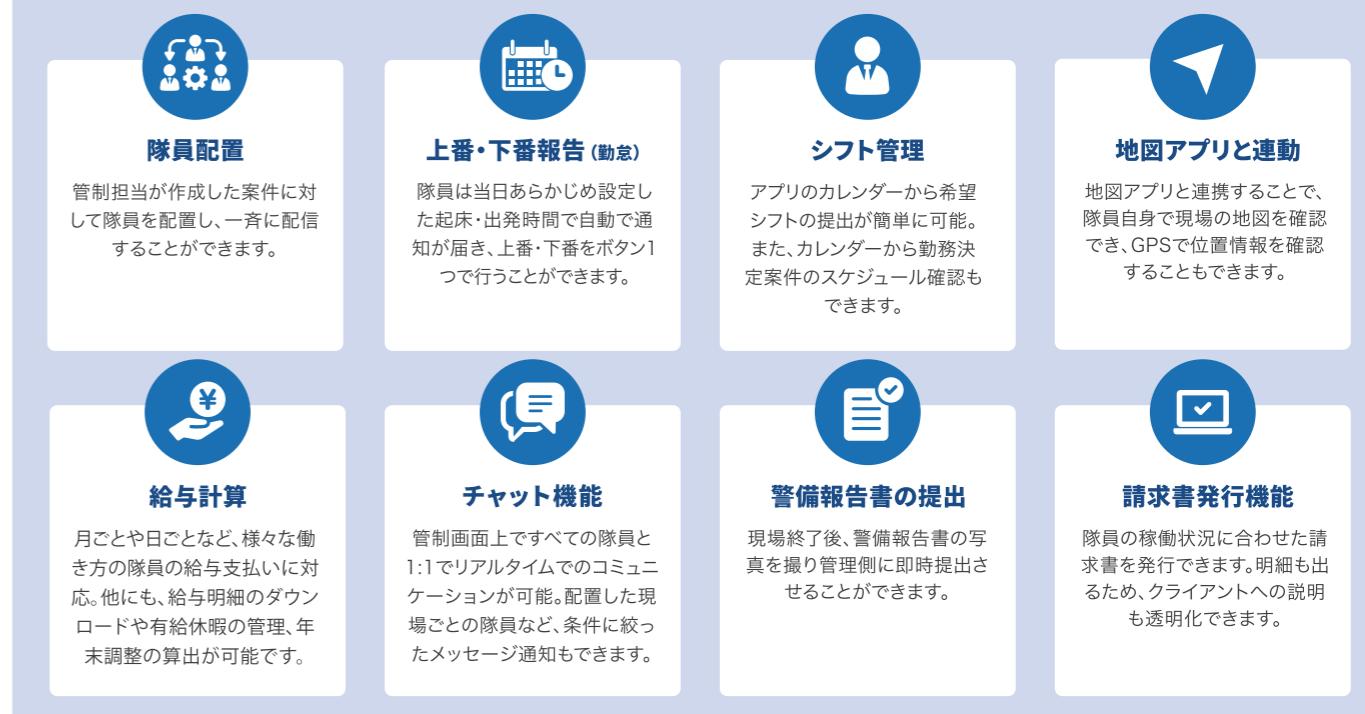
2025年(n=343)

シフト対応が柔軟	50.7%
自分のペースで働くことができる	36.4%
労働環境が整っている	31.2%
人の関わりが適度	28.0%
業務時間が適度	23.0%
体力的負担が少ない	18.7%
副業・Wワークができる	13.1%
福利厚生が良い	12.8%
職場の人間関係が良好	11.8%
社会貢献度が高い	9.9%
やりがいがある	9.9%
業務量の割に給与が良い	8.7%

警備員の継続理由トップ3に
柔軟性と労働環境の整備

→ 業務のあらゆる段階をデジタル化していくことが、
警備員の働きやすさと満足度を高めるカギ!

管理者・警備員、双方の負担軽減と業務効率化をサポート



隊員側も管理側も負担が大幅に軽減。

導入効果が極めてわかりやすく、
DXに懸念を示していた人たちからも
好意的に受け入れられた。

■企業概要

【企業名】アイング株式会社

【事業内容】百貨店や商業施設などの施設警備、等

【稼働隊員数】月間300名



清掃、警備、設備管理といったビルメンテナンス業務から、建築設計や施工管理などの空間創造事業、テナント誘致をはじめとする資産価値創造事業、人材派遣、バックオフィス事業まで、ビルの運営にまつわる事業を幅広く手掛けている『アイング株式会社』。

朝晩の施錠・解錠を担当しているビルは非常に多く、それゆえ隊員の出発確認・到着確認にはかなりの労力を費やしていましたといいます。同社経営企画室部長兼 DX 推進担当部長の守屋幸作さんから見ても、業務効率化は喫緊の課題。いかにして上番・下番管理の手間を減らすと同時に、不測の事態に備えるかを考えていた矢先、「プロキャス警備」に出逢ったことで、どのように業務効率が改善されていったのかをお伺いします。

隊員の自宅出発・現場到着の連絡は電話して もうしか無かった

「プロキャス警備」は主に上番・下番管理のために使っているそうですが以前はどのような方法で管理していたのですか？

守屋さん：すべて電話で管理していました。勤務日の隊員には、「今から家を出ます」と「現場に到着しました」の1日2回、北海道にある管制室に電話してもらっていました。

夜間、無人になるビルでは、施錠時に機械警備(建築物進入や火災などの異常をセンサーが察知して発報するシステム)をセットして、翌朝の警備担当者が解除することになっているのですが、担当者が遅刻すると、ビルで働く人たちが中に入ることができません。

そのため、絶対にそのようなことがないよう、電話がかかってこなければ急いで代わりに行ける隊員を探す必要があるため、管理する側も毎朝慌ただしい時間を過ごしていました。管制室には3人のスタッフが待機していたのですが、施設数が約60軒あるため、電話が集中する時間帯はひっきりなしに取り次ぎが必要でした。

集中する時間帯は、電話が繋がりにくいのも問題だった

その時間だけものすごく忙しくなっていたのですね。

守屋さん：そうなんです。しかも、ビルを開けるために早朝の3時台、4時台に出発する隊員も多いので、管制室で管理を行うスタッフは泊まり込みです。3時までに管制室に到着しておけば対応できるとはい、その時間は公共交通機関も動いていないので泊まるしかありません。

結果として暇な時間も多く、すごく効率が悪いです。しかも、管制室に電話を入れる隊員側からしても、電話が集中するつながりにくく、何回もかけないといけないというデメリットがあります。

隊員のなかにはスマホを持っておらず自宅の電話から連絡を入れている人もいるので、出かける直前になっても電話がつながらない、と焦ることもあったはずです。

「プロキャス警備」の利用料は、上番・下番管理システムを 自社開発した場合と比べて格安だった

では、そうした状況を改善したい思いがあったのでしょうか？

守屋さん：DX推進を担当している身としても、業務効率を改善したいと常々考えていました。状況を改善できるシステムを自社開発するのがいいのか、ニーズに合うシステムを探して導入するのがいいのかをDXコンサルに相談したこともあります。

それに対するコンサルの返答は、「要望に合うシステムは現状存在しないから自社で開発するのがいいだろう」とのことでしたが、見積もりを出してもらうと数百万円とかなりの金額。それでも開発したほうがいいのか…と検討していたちょうどそのころ、『プロキャス警備』が展示会に出展することを知りました。

課題を解決するための機能があるか部下に視察を頼んだところ、要望にぴったり合うことがわかりました。しかも値段は自社開発した場合と比べて遥かに安い。導入しない手はないと即決しました。

「プロキャス警備」を導入したことで、電話対応のスタッフを 1名分減らすことができた

導入に当たって不安はありませんでしたか？

守屋さん：不安というより、早朝勤務に対応している隊員は基本50代以上で、スマホを持っていない場合に端末を貸与するのかについて検討する必要がありました。しかし、スマホを持っていない人の割合を確認したところ約1割だったので、ひとまずは電話でも連絡できる状況はキープしつつ、『プロキャス警備』を導入する形にしました。ただし、電話の対応件数が大幅に減るため、管制室に3名待機していた当該業務の対応をするスタッフの業務量を1名分減らすことができました。隊員からもアプリになって電話連絡のストレスも減り、楽になったという声が出ていました。

「プロキャス警備」のスマホアプリはUIがわかりやすいから、スマホ初心者でも問題なく使える

残りの9割のスマホユーザーは、最初から問題なくアプリを使いこなせましたか？

守屋さん：UIがわかりやすいので問題なく使っています。私自身、導入前にインストールして使ってみたのですが、ログイン状態が保持されるため毎回パスワードを入れる必要もないし、出発連絡のボタンは大きくて見やすく、出発連絡をしたら自動的に到着連絡を入れるための画面に切り替わっているから、すごく簡単に操作できました。

予想外の副次効果は、スマホ連絡の便利さを目の当たりにした非スマホユーザーの隊員たちがスマホを買い始めたことです。ありがたい気持ちはあります、「アプリを使ったことがない人がちゃんと使えるだろうか？」と心配だったのですが、インストール方法を教えた翌日にはユーザー登録が完了していましたので、初心者にも使いやすいということなんだと思います。

ちなみに、こちらで用意したのはQRコードをプリントした用紙と簡単なマニュアルだけです。それだけでみんな問題なく登録し、使いこなしています。

シフト作成の必要がなくなり業務効率が大きく向上

管理する側の負担も軽減されましたか？

守屋さん：電話応対の件数が減ったのはもちろん、シフト管理表の作成・調整にかかる時間も削減することができました。これまで、月末に



電話対応がシステム化され、管制室の人員削減・隊員のストレス減少に！

Before

管制室

出発・到着の電話受けのため
3人体制でバタバタ



隊員

電話が集中し
繋がりにくくストレス



After

管制室

システム化により
人員が2名体制に



隊員

電話ではなく
アプリ対応にてストレスなし



導入前の課題

- 隊員からの自宅出発・現場到着の電話を受けるために
管制室には早朝から毎日3人のスタッフが待機していた
- 電話に集中する時間は繋がりにくく隊員はストレスになっていた
- 翌月のシフト作成に毎月5~6時間かかっていた

導入後の変化

- 管制室に待機するスタッフの工数を減らすことができた
- シフト作成は完全にシステム化、作成時間は0になった
- 業務効率化の成功例となり、DXに懸念を示していた人たちも聞く耳を守ってくれるようになった

翌月の各現場ごとのシフトが出ると、手書きで1日毎のシフト管理表に書き起こしていたので、その作業だけでも5~6時間かかっていたんです。

基準時間は施設や担当者によって異なるし、シフトの変更があればそのたびにシフト管理表を書き換える必要があるため、日々、シフトの更新作業に追われていました。しかし、『プロキャス警備』導入後は、現場からシフトが届いたら自動的に『プロキャス警備』に書き込むRPAを開発して活用しているので、シフトを作成する必要がなくなりました。

「プロキャス警備」は導入の効果がわかりやすいから、デジタルに疎い人にも喜んでもらえた

DXが一気に進みましたね。

守屋さん：もうひとつ予想外の副次効果として、『プロキャス警備』の導入が大きな成功事例となったことで、新しいテクノロジーの導入に懸念を示していた人たちが、聴く耳を持ってくれるようになったことも挙げられます。

DXを進めるとどうしても最初は反対意見が出がちですが、『プロキャス警備』は、導入することによって一人ひとりの負担が軽減されることがわかりやすいので、すんなり受け入れてもらえたのだと思います。社内でもすごくいい事例になりました。

今後は小型現場の管理コスト縮小のためにも「プロキャス警備」を活用していきたい

「プロキャス警備」を活用した今後の展望を教えてください。

守屋さん：弊社の関連会社からも、隊員の管理に関して相談を受けることがあるので、現在、どうすれば『プロキャス警備』を活用した業務効率化を提案できるかを模索中です。

たとえば、プロキャスを利用した管制業務のアウトソースを受託するのもひとつの手ですし、小規模マンションなど小型現場の管理コストを縮小するために、周辺の大型商業施設の担当者が複数拠点を回る方法も考えられます。『プロキャス警備』を活用すれば可能性の幅が広がるので、関連会社やクライアントにも新しいことを提案していくそうです。

警備業の現場を変える!

管理システムで

勤怠・配置・請求管理まで 一括効率化

警備業界は24時間365日、社会の安全を守るために欠かせない存在です。しかし、その裏では複雑な勤怠管理や人員配置、請求処理といった業務の管理の煩雑さに頭を悩ませています。直行直帰が基本の現場では従来のタイムカードが使えず、電話での勤怠報告や手作業での集計に多くの時間とコストがかかっているのが現状です。

専用の管理システムを導入することで、これらの課題を一気に解決できます。スマートフォンによる打刻、リアルタイムのシフト管理、自動化された請求書作成など、デジタル化によって業務効率は飛躍的に向上します。本記事では、警備業における管理システム導入のメリットや選定ポイントを詳しく解説します。

警備業界が抱える勤怠管理の課題とは

直行直帰による勤怠記録の困難

警備員は多くの場合、会社のオフィスを経由せず現場へ直接向かう「直行直帰」が基本となります。このため、従来型のタイムカードやICカードによる打刻システムが使用できないケースがほとんどです。

多くの警備会社では電話による勤怠報告に頼らざるを得ない状況が続いているますが、これには大きな問題があります。朝の上番（出勤）時間や夕方の下番（退勤）時間には電話が集中し、管制室の担当者は対応に追われます。特に繁忙期には、一人の管制担当者が複数の電話を同時に処理しなければなりません。

管制業務の負担増大

警備会社の管制室では、勤怠管理だけでなく現場の安全確認や緊急対応も担当しています。しかし、朝夕のピーク時には上番・下番の電話対応が殺到し、本来の安全管理業務に支障をきたすケースも少なくありません。

電話で受けた勤怠情報は、管制担当者が手作業でエクセルやノートに記録し、後日まとめて入力し直すという二度手間が発生します。この非効率な作業フローは人的リソースを圧迫し、より重要な業務への注力を妨げています。

月末の給与計算・請求処理の煩雑さ

警備業の給与計算は他業種よりも複雑です。日勤・夜勤の区別、時間帯による割増賃金、現場ごとに異なる手当体系など、考慮すべき要素が多くあります。手作業による集計では、これらの複雑な条件を正確に反映させることが難しく、計算ミスによる給与トラブルも珍しくありません。月末の締め処理では経理担当者が膨大な時間を費やし、時には休日出勤をして対応しているという実態があります。

また、クライアント企業への請求書作成も同様に煩雑です。現場ごとの契約内容や料金体系に基づいて正確な金額を算出し、適切なフォーマットで請求書を発行する作業は、多大な労力を必要とします。

人員配置・シフト管理の難しさ

警備業では、各現場に必要な資格や経験を持つ人材を適切に配置することが求められます。手作業でのシフト管理では、個々の警備員の資格情報や希望、能力を考慮しながら最適な配置を決定するのは至難の業です。

急な欠勤や人員変更が発生した場合、代替要員の選定は管理者の経験と勘に頼ることになります。このような属人的な管理体制では、ベテラン管理者の不在



時や引継ぎの際に大きなリスクが生じます。長期的な視点での人員計画も難しく、繁忙期と閑散期の調整や、新規案件獲得時の人員配置シミュレーションなども、手作業では限界があります。

警備業向け勤怠管理システム導入のメリット

スマホ・タブレットによる勤怠打刻の実現

現代の勤怠管理システムは、スマートフォンやタブレットを活用した打刻機能を標準で備えています。警備員は各自のスマートフォンから専用アプリで簡単に勤務開始・終了の記録ができるようになります。具体的なメリットは以下です。

- ・直行直帰現場でも正確な勤怠記録が可能
- ・GPS連動で位置情報の証明ができる
- ・オフライン打刻にも対応し通信環境に左右されない
- ・写真や音声メモも記録可能で詳細な報告が残せる

GPS機能と連動することで、実際の勤務先で打刻したことを証明できるため、不正打刻のリスクも大幅に軽減されます。たとえば、指定された現場の半径100m以内でなければ打刻できないといった設定も可能です。また、顔認証や生体認証を組み合わせることで、なりすまし打刻の防止にも役立ちます。これにより、タイムカードの貸し借りといった古典的な不正行為も防止できるでしょう。

電話報告の削減による業務効率化

勤怠管理システムの導入により、電話による煩雑な上番・下番報告をデジタル化し、管制室の負担を劇的に軽減されます。担当者は電話対応から解放され、聞き間違いや記録漏れといったヒューマンエラーを防ぎつつ、本来の安全管理や緊急対応に集中できる環境が整います。

さらに、勤務状況がリアルタイムで可視化されるため、現場の状況把握が格段に容易になり、問題発生時も迅速な人員配置や的確な指示が可能になります。

給与計算の自動化と正確性向上

勤怠データと給与計算を連携させることで、手作業で行っていた複雑な計算を自動化できます。日勤・夜勤の区別、時間帯による割増賃金、各種手当の計算など、細かなルールをシステムに設定しておけば、正確な給与計算が可能です。

月末の給与計算作業が数日かかっていたものが、ボタン一つで完了するため、経理担当者の負担が大幅に軽減されます。また、計算ミスによる給与トラブルも防止できるため、従業員満足度の向上にもつながるでしょう。

さらに、給与明細のデジタル化も実現できます。紙の給与明細を作成する手間が省け、従業員もスマートフォンから給与情報をいつでも確認できるようになります。

効率的なシフト作成と人員配置

警備業向けの管理システムには、シフト作成を効率化する機能も搭載されています。各警備員の資格情報、勤務可能時間、希望シフトなどを考慮しながら、最適な人員配置を自動で提案してくれます。

また、シフト作成後に欠員が発生した場合でも、条件に合う代替要員を瞬時に検索し、連絡を取ることができます。これにより、管理者の経験や勘に頼らない、公平で効率的な人員配置が実現します。長期的な視点での人員計画も容易になります。

ます。過去のデータを分析し、繁忙期・閑散期の傾向を把握したり、新規案件獲得時のシミュレーションを行ったりすることで、戦略的な人員配置が可能になるでしょう。

データの一元管理によるメリット

クラウドベースの管理システムでは、これまでバラバラに管理されていた情報を一元化できます。勤怠データ、警備員の個人情報、資格情報、契約内容、請求情報などを統合的に管理することで、業務効率が格段に向上します。

必要な情報に素早くアクセスでき、データの重複入力や矛盾した情報の発生を防止できます。これにより、情報の正確性と一貫性が担保されるため、経営判断の質も向上するでしょう。

また、データのバックアップも自動で行われるため、災害時や機器故障時のリスクも軽減されます。紙の書類やエクセルファイルの紛失・破損といったトラブルから解放され、安心して業務に集中できる環境が整います。

警備業向け管理システム選定のポイント

使用端末と打刻方法の多様性

警備員の年齢層やIT習熟度はさまざまです。特に高齢の警備員も多い業界では、簡単に操作できるインターフェースが求められます。

スマートフォンだけでなく、現場に設置したタブレットでの打刻や、固定電話からの音声認証など、複数の打刻方法に対応しているシステムが理想的です。これにより、すべての警備員が無理なく利用できる環境を整えられます。具体的に確認すべき打刻機能は以下です。

- ・スマートフォンアプリ対応(iOS/Android両方)
- ・タブレット設置型の打刻
- ・オフライン対応
- ・GPS連動機能
- ・なりすまし防止機能(顔認証など)

また、通信環境が不安定な現場も考慮し、オフライン打刻機能を備えているかどうかを確認しましょう。インターネット接続がなくても打刻データを一時保存し、通信回復後に自動送信する機能があれば安心です。

警備業特有の機能への対応

警備業には他業種とは異なる独自の業務フローがあります。選定するシステムが、これらの特性に対応しているかを確認することが重要です。

上番・下番報告、巡回記録、引継ぎ情報の共有など、警備業特有の機能が標準搭載されているシステムを選ぶべきでしょう。また、現場ごとに異なる指示事項や注意点を共有できる機能も便利です。

さらに、警備報告書のデジタル化機能があれば、紙の書類作成・提出の手間が省け、情報の正確な記録と迅速な共有が可能になります。写真や音声メモを添付できる機能があれば、より詳細な報告が可能です。

他システムとの連携性

勤怠管理システムの真価は、給与や会計といった他システムとの連携でこそ発揮されます。システム選定で失敗しないためには、単体の機能だけでなく、連携性を必ず確認しましょう。

チェックすべきは、API連携やデータエクスポート機能が充実しているか、そして既存の給与・会計ソフトとの連携実績があるかという点。これらを満たせば、業務フローを大きく変えることなく導入できます。将来的な拡張性も視野に入れ、長く使えるシステムを選ぶことが重要です。

運用サポートとセキュリティ対策

システム導入後のサポート体制も重要な選定ポイントです。特に24時間稼働が基本の警備業では、夜間や休日のサポート対応の有無が重要になります。

電話やチャットでのサポート窓口の受付時間、対応スピード、マニュアルや研修資料の充実度などを事前に確認しておくことをおすすめします。また、定期的なバージョンアップやメンテナンスの頻度についても確認しましょう。

セキュリティ面では、個人情報保護やデータ暗号化、アクセス権限管理などの対策が講じられているかを確認することが重要です。特に、警備業では機密性の高い情報を扱うことが多いため、セキュリティ認証(ISO27001など)を取得しているかどうかも参考になります。

警備業の請求管理における効率化ポイント

警備業では、勤怠管理だけでなく請求管理も大きな業務負担となっています。管理システムを活用した請求業務の効率化ポイントを解説します。

複雑な料金体系への対応

警備業の料金体系は、日勤・夜勤の区別、時間帯による割増率の違い、現場ごとに異なる単価設定など、非常に複雑です。これらを手作業で計算すると、ミスが発生しやすく、多大な時間を要します。

プロキヤス警備では、これらの複雑な料金体系をシステムに設定しておくことで、正確な請求金額を自動計算できます。現場ごと、クライアントごとに異なる料金設定も柔軟に対応できるため、請求書作成の正確性と効率が大幅に向上します。

また、警備員の勤務実績とクライアントへの請求を連動させることで、請求漏れや過剰請求のリスクも軽減できます。これにより、収益管理の精度も向上するでしょう。

請求書発行の自動化

従来の請求書発行作業では、勤務実績の集計、請求金額の計算、請求書の作成、送付状の準備など、多くの手作業が必要でした。これらの作業を自動化することで、大幅な業務効率化が可能です。

プロキヤス警備では、勤務実績データから自動的に請求書を作成し、PDF形式で出力できます。クライアントごとに異なる請求書フォーマットにも対応可能で、会社のロゴや印影も設定できるため、見栄えの良い請求書を効率的に発行できます。

また、請求書のメール送信機能やクラウドストレージへの保存機能もあり、紙の請求書を印刷・送付する手間も省けます。これにより、請求業務全体の効率が大幅に向上するでしょう。

入金管理との連携

請求書発行後の入金管理も、警備会社にとって重要な業務です。請求情報と入金情報を連携させることで、未入金の早期発見や入金消し込み作業の効率化が可能になります。

プロキヤス警備では、請求管理機能と入金管理機能を連携させることで、入金状況の可視化と未入金案件の早期検知を実現しています。入金期日が近づいた未入金案件へのアラート機能もあり、適切なタイミングでの督促が可能です。

また、銀行口座との連携機能を活用すれば、入金データの自動取得と消し込み作業の自動化も実現できます。これにより、経理担当者の負担が軽減され、より戦略的な業務に集中できるようになります。

まとめ

多くの警備会社が抱える、直行直帰の勤怠管理、煩雑な人員配置、複雑な請求業務といった課題。これらは、適切なシステムの導入で大きく改善できます。

例えば、スマート打刻で勤怠報告をデジタル化すれば、管制室の負担は軽減。システムによるシフトの最適化や条件検索は、人員配置の手間を削減します。さらに、複雑な料金体系に基づく請求額も自動計算されるため、ミスなく迅速な処理が可能です。

警備業特化型システム「プロキヤス警備」は、これら勤怠管理から請求書発行までを一気通貫で対応。業務効率化によるリソースの有効活用は、厳しい競争を勝ち抜くための重要な経営戦略となります。まずは無料デモで、その効果を体験してはいかがでしょうか。